

平成29年度 第2回 学校評議員会 記録

日時 平成30年2月21日(水)
13:30 ~ 15:30

会場 気仙光陵支援学校 会議室

【出席者】

〈学校評議員〉	〈学 校〉
A委員 (教育関係)	校 長
B委員 (卒業生関係)	副校長 2名
C委員 (進路先関係)	事務長
D委員 (地域関係) (欠席)	教務主任
E委員 (地域関係機関)	小学部主事
	中学部副主事
	高等部主事
	寮務主任

1 開会のことば

2 校長挨拶

- ・ 今年度は本校 30 周年記念事業に行ったが、各方面からご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。
- ・ 児童生徒は、4月から、明るく、楽しく、元気よく充実した学校生活を送っている。2月8日から3日間にわたって、サンリアにおいて校外作品展を開催したが、多くのお客様に来校いただいた。
- ・ 2月にはインフルエンザが流行し、高等部において1学年と2学年が学年閉鎖となった。
- ・ 本日は今年1年の子どもたちの学習や生活の様子を報告させていただき、評議員の方々から助言をいただきながら、来年度の教育活動に活かして参りたいと思う。よろしくお願いいたします。

3 出席者自己紹介・・・ 上記出席者のとおり

4 協 議

(1) 学校経営計画の実施状況について

【校長】

平成29年度の重点について、過日行った学校評価における、職員による自己評価の達成度を報告します。

① 分かる授業、考えやすい授業の推進

ア 個々の教育的ニーズを的確に把握し、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の充実を図る。 **【学校評価98%】**

イ 基礎的環境整備に努める。 **【学校評価95%】**

② 個々の教育的ニーズに応えられる授業力・専門性の向上

ア 常に授業改善(PDCA)に努め、全教職員の授業力・専門性の向上を図る。 **【学校評価94%】**

イ ICT活用に関する研修を深める。 **【学校評価86%】**

③ キャリア教育の充実

ア 小・中・高・寄宿舎の連携を一層図りながら長期的視点にたち、一貫性・継続性がある教育を推進する。 **【学校評価85%】**

イ 研修会開催・情報提供によりキャリア教育・進路指導について、保護者と十分な共通理解を図り、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。 【学校評価 97%】

④ 開かれた学校及び交流及び共同学習の推進

ア 家庭・地域・関係機関と連携し、支援の充実を図る。 【学校評価 99%】

イ ホームページ、学校評価、学校評議員等により、開かれた学校づくりを推進する。 【学校評価 95%】

ウ 「交流籍」を活用し居住地における学習活動の一層の工夫と充実を図り、保護者や相手校と成果を共有する。 【学校評価 92%】

エ 学校間交流や地域交流の一層の工夫と充実を図る。 【学校評価 96%】

⑤ 特別支援教育の専門性の向上及びセンター機能の発揮

ア 校内外の知的財産を活用し、研修及び実践を図りながら特別支援教育の専性向上を目指す。校外情報について校内職員にも情報提供をし、専門性を共有していく。 【学校評価 97%】

イ 特別支援教育センター校として地域の特別支援教育の充実と啓発に努める。 【学校評価 97%】

⑥ 防災・復興教育の推進

ア 災害の知識（命や身の守り方）や地域での在り方等、安全な生活について「考える・行動する」ことができるよう総合的な学びを推進する。 【学校評価 95%】

イ 自己有用感を育みながら、多様な地域参加をし、復興教育を推進する。 【学校評価 85%】

ウ スクールカウンセラー、機関コンサルテーション等を活用し、心と体のケアを行う。 【学校評価 95%】

⑦ 学校創立 30 周年記念事業の推進

ア 児童生徒・保護者・教職員等で 30 周年を祝う。 【学校評価 100%】

イ 各事業間の連携を取り、全教職員で記念事業を推進する。 【学校評価 100%】

具体的な方策 17 項目中、14 項目で職員の自己評価は 90%を超える結果となりました。先生方には一生懸命取り組んで頂いたことに感謝している。

この中で評価が若干低かったのは、80%台で、ICTに関する研修、キャリア教育の一貫性、継続性のある教育の推進、復興教育の推進の3つでした。今後この項目については、更に検討を重ね、自己評価の達成度を上げるように取り組んでいきたい。

【各校務分掌の取組】

（教務主任、副校長）…資料のとおり

(2) 各学部、寄宿舎の活動の様子について

（各学部主事、寮務主任）… スライドによる紹介

【質疑・助言】

（A委員）

- ・ 学校評価の達成度については、非常に高い数値が示されており、素晴らしい学校経営がなされているし、先生方の努力の成果が伺われます。
- ・ 卒業生へのアフターケアの回数について、年々回数が増えてきているとのことですが、アフターケアにはかなりの情報が必要になってくると思うが、人事異動等で担当職員が変わった時の情報の引き継ぎはどのように対応しているか。

<回答> （副校長）

卒業生の進路に関わる追跡情報は、データとして蓄積されており、また職員間の連携も取れているため、一貫性、継続性のあるアフターケアが行われている。

- ・ 学校周辺の道路状況が良くないが、登下校の安全指導ではどのような指導を行っているか。

<回答> （副校長）

交通安全指導は、4月と8月に年2回行っているが、今年度も今のところ大きな事故も

なく心配していない。児童生徒も寄宿舎からの登校や、保護者の送迎、福祉施設の送迎サービス等で自転車での通学は殆ど無くあまり心配していない。今回の石山評議員のご助言を受けて、今後もう一度交通安全の取組について見直していきたいと思う。

(C委員)

- ・ 貴校で行われている、課外活動は良いことだと思う。最近の子どもは外で遊ぶなくなっている、大切な取組だと思う。

また、クリーン作戦、仮設住宅の訪問、立根川美化活動などは、社会勉強にもなるし、地域に支えられていることを学ぶ教育の場としても意義を感じた。

- ・ 働き方改革が社会では課題になっているが、先生方の時間外労働も同様の課題だと思う。ワークライフバランス、つまり仕事、学校と生活(余暇)の両立も進めていかなければならないのではないかなと思う。学校でも主たる授業以外の仕事が多くなってきているように思う。従って効率の良い働き方を今後考えていかなければならないのではないかな。そういう意味では、卒業生のアフターケアも専門機関に委託していかなければ、先生方の負担も解消できないのではないかな。

(D委員)

- ・ 一般就労の定着という観点では、卒業生のアフターケアは重要な取組だと思う。
- ・ 各学部の活動の様子を報告いただき、小学部から中学部そして高等部さらには寄宿舎とつながりを持って支援して頂いていることを理解できた。
- ・ つながりという観点で、中学部や高等部の作業学習や産業現場実習で、主体的な発達や意識付けへのアプローチで、何か特段取り組んでいることがあれば教えていただきたい。
また、奉仕活動とか地域での活動が積極的に行われているが、そうした開かれた学校づくりの推進が最終的には生徒の自己達成感につながっているのだと常に感じているので、学校としての取組の工夫があれば教えていただきたい。

<回答>(中学部副主事)

1年生で初めて作業学習に取り組み、働くと言うことに出会い、物を作って、それが実際に人の手に渡って喜んでもらったり、自分の買って来た材料が製品になることに喜びを感じて生徒たちは取り組んでいる。自分の作った製品が目の前でお客様に買っていただくことで、その喜びでまた作ろうという気持ちになっている。

また、自己の生き方について考える学習として「ハッピーライフ」に取り組んでおり、地域にある仕事を調べたり、卒業生の仕事を調べたことで、自分たちも高等部を卒業したら働くんだという目標を持つようにしている。そしてそのために今できることは何かを考えさせ、気持ちの良いあいさつだとか、身だしなみだとか、自分の生活に振り返って、さらには日々の生活に生かして取り組んでいる。こうした取り組みが子どもたちのキャリア教育に役立っているのだと思う。

<回答>(高等部主事)

作業学習と産業現場実習、授業の中では「産業社会と人間」の科目で取り組んでいる。働く意識付けで一番大きいのは6月と9月に実施する産業現場実習である。結団式でみんなの前で決意を発表したり、あいさつの練習をしたりする取り組みが、意識付けにつながっていると思う。

作業学習では、総合商社光陵として模擬会社を設立しており、11月には中間売上報告会を実施し、2月には納会として売上決算報告会を実施している。会社に見立てて年間を等して継続的に取り組んでいることが、就労への意識付けにつながっていると思う。

(B委員)

- ・ 自分の娘も本校でお世話になって、現在就労支援事業所で就労しているが、学校で学んだ事が非常に役立っている。毎日仕事が楽しいと話している。また寄宿舎生活で身に付いた習慣が現在の生活に役立っている。
- ・ 支援学校を卒業してからの困り感は、運動不足である。在学中は規則正しく運動をしていたのに、運動する機会が無くなったことで健康管理に苦労している。

- ・ 福祉施設を2カ所同時に利用できない現状に困っている。今後は共稼ぎの家族も増えていくことが予想されるので、障がい者が施設を複数利用出来るように今後も要望していきたい。

(3) 学校評価結果について

資料により担当副校長より説明

- ① 実施期間 12月1日(金)～12月15日(金)
- ② 対 象 本校職員 77名 保護者 74名 児童生徒 77名

以下別紙のとおり

【質疑・助言】

(A委員)

学校評価となるとどうしても、保護者、職員だけの評価となりがちだが、子どもたちの意見を聞き取るということは大事だと思う。こうした取り組みを続けることによって、子ども達の自己評価能力が高まっていくのだと思う。

本日授業参観で見させていただいた子ども達の姿が、本当に生き生きとして、非常に優しい顔をして、集中して取り組んでいましたので、普段の取り組みが本校の学校評価に表れているのだと思う。

5 報告

(1) 平成29年度卒業予定者の進路状況

高等部主事より資料により説明

(2) コンプライアンス結果について

担当副校長より資料により説明

- ① 実施期間 12月19日(火)～12月22日(金)
- ② 対 象 本校職員 79名

以下別紙のとおり

【全体を通して質疑・助言】

(B委員)

今回の委員会に参加して、コミュニケーションの大切さに痛感しました。先生方も大変だとは思いますが、今後とも生徒が楽しく過ごせる学校生活の支援をお願いしたい。

(C委員)

コンプライアンスチェックシートの社会貢献活動の展開項目について、先生方にとって一番苦手な部分なのかと思いました。先生方も多忙な毎日で大変なこととは思いますが、社会の目ということもありますので、若干推進の取り組みをしていった方がよいのかと思う。

(E委員)

今後もつながりを大切にして、支援に取り組んで行きたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

【校長より】

長時間に渡り貴重なご意見をありがとうございました。今後の学校経営に活かして参りたいと思います。なお佐々木評議員さんですが、3年間の任期を終え、今年度で終了ということで、本当に3年間貴重なご意見、ご指導ありがとうございました。本日は誠にありがとうございました。お世話様です。

6 閉会のことば